

# 株式会社アイルネット

## 絶対に止まることが許されない 音声通信サービスを効率的に監視し、 高いコストパフォーマンスと 品質保証を実現する「BOM for Windows」

株式会社アイルネットは、IP電話システム・サービスの開発、製造、販売を中心に、法人向け情報通信システム・サービスの販売、携帯電話ショップの運営を手掛けています。主力であるSIPサーバー事業、とりわけ、クラウドPBXサービス事業において、「BOM for Windows」をシステムの標準構成に組み込んでおり、システムとしての高い信頼性を実現することによって顧客から高評価を獲得し、コストパフォーマンスの高いサービスを提供しています。



### 導入前までの経緯

- クラウドPBXサービスの提供開始に際して、信頼度の高い監視ツールが必要な状況でした。
- 安価なサービスとして提供するため、コストパフォーマンスに優れたツールを求めていました。

### 導入後の成果

- BOMによる自動化されたサーバーの運用状態監視によって、システム全体の信頼性を高め、安定した音声通信サービスが実現できました。
- アプリケーションとして使いやすく、効率的な監視業務が実現され、運用トータルコストを削減することができました。



古屋光俊様  
株式会社アイルネット  
常務取締役  
法人事業部長

### Windows版SIPサーバーにより 革新的なIP電話サービスを実現

アイルネット社は、自社開発のSIPサーバーを利用して、10年前からクラウドPBXサービスを全国的に事業展開するIPフォンシステムのパイオニアです。同社のサービスは、企業や自治体における電話交換機(PBX)を撤去し、固定電話や構内PHSのみならず、無線IPフォン、携帯電話、スマートフォンなどの様々な端末を全て内線化するサービスをクラウドネットワーク上で提供するものです。複数の拠点を有する企業では、それぞれの拠点に設置されたPBXを順次撤去し、アイルネット社のサービスに集約することで、高価なビジネスフォンやPBXを購入する必要がなく、初期の費用、維持管理費用の

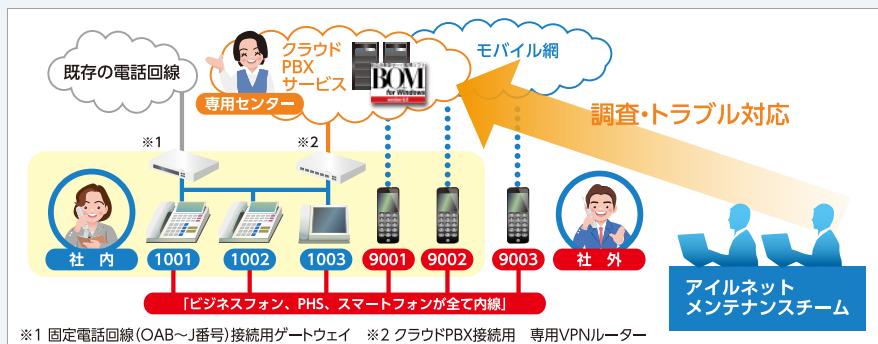
削減、無料内線利用を促進することによる通信費の削減を同時に実現できます。同社の常務取締役人事業部長である古屋光俊様に同社のサービスの導入状況をご説明いただきました。「このサービスは、企業の規模を問わずに導入できます。数人規模の企業から数1000名規模の大企業まで。また大分県豊後大野市では、自治体全体での内線システムを構築し、サービスを提供しています。住民の方や役所、病院などの固定電話を内線化するもので、利用規模は人口4万人、端末は1万3,000台にのぼります。」

SIPサーバーとは、IP電話サービスの管理・制御を行うサーバーのことです。アイルネット社のSIPサーバーの特徴は汎用Windowsサーバー上で稼動するアプリケーションとして開発をおこなっているところです。同社は1997年からIP技術の独自開発という取り組みを始め、ハードウェアとソフトウェアが一体として構成されていたSIPサーバーからソフトウェアを分離することに成功し、汎用Windowsサーバーによる安価なシステム構成の実現に成功しました。結果として市場における価格優位性と、シンプルな構成による高い信頼性を確保してきました。さらに、ソフトウェアですので、ハードウェアの信頼性を高め

ることにより、数万台規模の大規模ネットワークも低価格で実現することができるのです。

これまで、IP電話システムは、国内大手電機メーカーが自社製品を販売することで普及させてきました。国内メーカーの戦略は、システムを自社ブランドの電話機や機器のみで構成し、顧客を囲い込むというものでした。一方、海外ではシスコ社が世界標準のSIPに基づいた製品をグローバルで販売展開し、シェアNo.1のメーカーとして君臨しています。10年前から日本国内にも進出し、グローバル製品群を提供しています。古屋様によれば、「シスコ社のシステムは素晴らしい製品であるが、高額なため、より低価格で電話システムを構築したい」という要望が国内企業から寄せられました。当社は、戦略として、国内メーカーのような独自仕様製品を開発することなく、グローバルスタンダードのシスコ社仕様に準拠したSIPサーバーを開発しました。当社のソフトウェアを利用すれば、例えば本社はシスコ、地方拠点・支店には当社のシステムを導入する形で、トータルとして低価格なサービス提供を実現したのです。」さらに、アイルネット社はオープンなソフトウェアとして提供してきたため、国内シェアを着実に拡大しています。このようにして同社は、シ

## クラウドPBXサービスの仕組み



システム開発のベンダーあるいはソリューションプロバイダーとして、そのポジションを確固たるものとしてきたのです。

### コストパフォーマンスと信頼性の高さ、 BOMはすべてを備えていた

アイルネット社は、2005年に固定電話のクラウドPBXサービスを開始しました。2013年6月からは、携帯電話やスマートフォンなどモバイル機器とも接続できるサービスへと進化させました。古屋様からはこのサービスで重視したポイントを「クラウドPBXサービスでは、電話がつながることは絶対条件です。このためにネットワークの状態や、サーバーがきちんと稼動しているかをつねにチェックしておかなければなりません。」とご説明いただきました。サーバーはプライマリ、セカンダリで構成され、プライマリサーバーに不具合が起きたときにセカンダリが稼動する仕組みとなります。そして、この仕組みをサポートするのが「BOM for Windows」となります。サーバーが動作不安定な状態になつた時にアラートメールが送信され、運用者がプライマリの稼動を継続するかどうかを判断します。この監視用としてBOMがセットされているわけです。同社には2005年のサービス開始時より、BOMを組み合わせて販売いただいている。BOMの選択、導入について、古屋様には「コストパフォーマンスの一語につきます。当社のサービスにとっては、BOMの標準的なテンプレートで十分な機能を果たすことができます。私たちの求めらるものが、あの価格で使える。そして信頼性ですね。私たちにとって一番大事なものを備えていたのです。」とご説明いただきました。

BOMは、その監視機能とともに、アイルネット社の製品ではさらに別の重要な役割を果たしています。サービス開始当時、ある技術系商社にサービスを提供する際、BOMを試験的に導入しました。古屋様からは、当時のことを以下のようにご説明いただきました。「運用の際にプライマリサーバーが動作不安定になることがあります。この時、セカンダリサーバーに切り替えるのですが、当社のアプリケーションでは自動的に切り替えることができない。そこで、BOMの機能にあわせて当社のアプリケーションに機能を付加し、動作不安定になればアラートを出すセンサーを組み込みました。このアラートを受けてBOMがプライマリサーバーを自動的に強制停止させ、セカンダリに移行せることにしました。これによって、電話がつながらないという問題は一気に解決しました。」センサー機能とBOMを連携させることによって、システムのサービスレベルを維持することができたのです。もちろん、BOMが可能にした機能は標準機能の組み合わせであり、特にカスタマイズされたものではありません。

### BOMは大規模システムには必須、 新サービス創出のきっかけにも

PBXサービスの提供形態にはタイプが2つあると教えていただきました。ひとつはサーバーをお客様に提供するもの、もうひとつはネットワーク経由でクラウドサービスを提供するものです。いずれの場合も、保守・メンテナンスはリモートコントロールで行います。BOMの機能がここで生かされることになります。お客様のサーバーでも、VPNを構築してメンテナンスを行う事ができるのです。古屋

様からは「BOMは標準装備ではありません。あくまでお客様ニーズによって対応します。ただし、拠点数、端末の台数が多くなれば監視をBOMで自動化することが求められるのです。とくにデータセンターなどに導入する際は必須でしょうね。」続けて、「電話は絶対止まってはいけない。バックアップが必要で、それに切り替えるためにBOMは不可欠だと思います。さらに効率性も高い。当社では、お客様の環境を監視するのに、わずか2名で対応することができます。加えて言えば、セイ・テクノロジーズの価格体系はとてもクリアです。ランニングコストで別のチャージがかかることがないのです。」とご説明いただきました。

古屋様には将来的な可能性についても言及いただきました。「先にご説明したように、アイルネットではモバイルと固定電話の2種をつなぐ、すなわちクラウドPBXでFMCサービスを提供しています。FMCとは、有線通信と移動体通信を組み合わせた電気通信サービスのことです。このFMCにはいろいろなパターンがあります。モバイルとサーバー、そしてスマートフォンをつなぐといったように、多機能を有するスマートフォンは、いわば持ち運びできるPCとも言えます。こうした状況のもとでは、サーバーだけでなくクライアント側の監視ニーズが出てくることが考えられます。」デバイスにソフトウェアをインストールして、サーバーとクライアント双方の監視を行うニーズがあるということをご説明いただきました。例えば、デバイスでアプリケーションが起動しているかどうかをチェックしたいというニーズが生まれるということです。サーバー、ネットワーク、デバイスをもれなくモニタリングすることに加えて、全体の稼働状況を見える化>することができれば新サービスにつながるということです。PBXをクラウドで外部利用する際に、BOMを活用することでFMCや各デバイスのセキュリティや安全性に対する不安感を取り除き、その優位性をアピールすることができればもっと普及するはずだと、その可能性について語っていました。

最後に、古屋様にはこう締めくくっていただきました。「当社のサービスは絶対止められないサービスです。BOMの信頼度はきわめて高く、当社の品質保証の基幹となるものです。」